

# 2024年度QCサークル本部方針

2023年7月28日

QCサークル本部

QCサークル活動（小集団改善活動）により、  
日本全体の“仕事(業務)の品質/質”のダントツ化を図ろう！

## 【基本方針】

1. QCサークルのリーダー・メンバーは、チームワークで仕事の達成感と自己成長を図る！  
(人間力)
2. リーダーは、より高い目標に挑戦するリーダーシップを発揮する！  
(仕事力)
3. 管理者・監督者は、QCサークル活動支援を職場マネジメントの主要事項として行う！  
(職場力)
4. 推進事務局は、全社一丸となったスピード感あふれる改善活動の活性化のために新しい施策を企画する！（組織力）
5. 経営者は、経営に資する全社TQM推進の一環としてのQCサークル活動(小集団改善活動)の強化を図る！（経営力）
6. 地域の企業・組織との連携を図る！“仲間づくり”

## 【2024年度重点実施方針】

1. 社会やお客様の価値観の変化として捉えて従来検討を進めてきたコト化、SDGs、DX 等への対応は継続し、さらにコロナ感染症の5類への移行とともに社会活動のニューノーマル化が常態化することを踏まえた QC サークル活動運営の改革を図る。それにあたっては、これまで以上に、本部、支部、地区の情報の共有を図り、連携を強化する。
2. 具体的取り組みとして
  - ①より合理的な本部・支部・地区の組織と運営への見直し
  - ②先進的に改革を進められている組織、企業活動のベンチマークと横展開
  - ③DXによるQCサークル活動の効率化と新たな活動手法の開発等の研究を進める
3. 産業全体（公務を含む）にQCサークルを展開するために課題であった第三次産業と中小規模の企業、組織への普及を促進するための大会、行事、研修会を実施する。

## 【本部・支部・地区の基本となる活動】

1. 経営者・管理者に対するフォーラム・コミュニティの開催など、QCサークル活動活性化への継続的支援活動。
2. 本部・支部が、分担あるいは連携して、本社機構、経済団体、業界団体などへの働きかけにより、普及拡大、活動への参加促進の取り組みを行う。
3. 産業全体を対象に、企業・組織の会員加入・活動への参加、幹事の引受を促進するために、新たな企業・組織だけでなく、幹事会社、会員企業・組織の本社・他事業所、グループ企業（関係会社）への働きかけを行う。
4. 本部・支部が連携し、e-QCCの提言、JHS-WG 答申等に沿って、新しい時代に合ったQCサークル活動の具体的な展開を図る。
5. QCサークル活動発表者への動機付け、聴講者の積極的な参加を促進するために、ニューノーマル化に対応し、オンライン開催、ハイブリッド開催などの大会・行事のあり方、企

画・運営の工夫。

6. 支部長会社・地区長会社・幹事会社の負担軽減のため、DXの活用を前提とした運営の効率化や分担の工夫・任期の見直し。
7. 地域の経済を担う中堅企業や生活を支える医療・福祉団体などと連携し、エッセンシャルワーカーをはじめ、業種・業態などによって長時間に亘り職場を離れにくい方々の大会への発表、聴講参加の誘引を図るためのオンラインシステム活用などを進める
8. サービス業務（事務・間接・医療・福祉など）を中心とした組織に適した新しいやり方を取り入れた普及拡大、活動の推進（事務・間接には、開発・設計、企画・営業業務を含み、サービス業務には、卸・小売業、運輸業、宿泊・飲食業、教育・研修等の業務も含む）。
9. 小規模企業へデジタルツールを活用したQCサークル活動（小集団改善活動）の支援、普及拡大、活動の推進。
10. 行政、学界、経営者協会などとの連携による、地域の特色を生かした運営。

#### 前記方針の達成に向けた、本部・支部・地区における具体的な取り組み（例）

1. 地域の行政や経営者協会等の経済団体との連携をとりながら、選抜大会や経営者フォーラムを開催し、経営者・管理者へ、この活動が経営成果につながることへの理解活動を展開する。
2. DXの考え方にに基づき、大会をはじめとする行事などの場をオンライン併用などデジタル技術を活用して提供すること、更には、本部・支部・地区の運営業務をオンラインツールを活用して負担軽減、効率化していけるように、積極的に情報やノウハウ共有を進める。
3. 組織・行事等の運営や活動推進の悩みを相談できる場を設けるとともに、各企業・組織が実施している良いやり方を事例集にまとめ、事例活用や相互研鑽に役立てる。
4. 個々の企業・組織のニーズに応じた研修を企画し、オンラインをはじめとするデジタル技術を活用した教材などの提供も含め、ニューノーマル化対応で実施した例を情報共有し、研修会運営の工夫の理解・構築に繋げる。
5. 個別指導、エリア（ブロック）幹事会社制度などの具体的な仕掛けを活用し、地域の経済を支えるものづくり中堅企業、ならびに福祉・医療・教育などの社会基盤を成す分野への普及・拡大をはかり、活動の裾野を広げる。
6. QCサークル本部主体で実施した「小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の導入・支援活動」を踏まえてモデル化した資料（導入・支援手順書）を活用し、QCサークル本部の支援・協力のもと、支部・地区の指導・支援体制を強化し、小規模企業の活動基盤の構築につながるような働きかけを行う。
7. 従来の幹事制度にこだわることなく、参加企業間で負荷を分担し、DXの活用を前提に、支部長会社・地区長会社、幹事会社への負担軽減、業務の効率化を図り、組織や行事等の運営の合理化を推進する。
8. サービス業務（事務・間接・医療・福祉など）を中心とした組織へ普及拡大を働きかけ、リーダー・メンバーの参加意欲を促進する具体的な方法・ツールを開発・活用する。
9. 発表大会や選抜大会に伴う工場見学会／講演会などを、業種や地域を越えて参加いただけるように、ITやオンラインツールを活用した企画・工夫を図る。

10. 自己啓発、相互研鑽と情報共有はもとより、多くの企業・組織に必要とされる情報誌として、『QC サークル』誌編集委員会と QC サークル本部が連携をとり、活動や大会・研修会などでの『QC サークル』誌の活用を図るとともに、より一層効果的な活用方法を工夫する。引き続き、2 サークルで1冊購読と、現場力（職場力）の更なる向上をめざす。

## 【2024 年度重点取り組み事項】

1. 引き続き、本部・支部・地区の運営改革に取り組み、ニューノーマル化に対応するオンライン・DXの活用を前提に、大会や研修会の運営の工夫、本部・支部・地区の業務分担の見直しや負担の軽減（データ一元管理、書式の完全テンプレート化、定型業務の RPA 化などによる）など、新しい時代への挑戦を継続する。
2. 活動環境の変化（コト価値、2024 年問題への対応など）に対応し、広く、事務・販売・サービス部門への普及拡大と活動の促進をめざして、活動の入り口を広げるために、必ずしも運営事例の取り扱いにこだわらない、改善事例を前面に出した大会や普及 拡大方法等を検討する。
3. サービス業や小規模企業に対して、活動の促進や支援を行うため、本部・支部が連携し、役割分担して、手法だけでなく、改善活動の考え方の紹介、大会・行事等の工夫などにより、サービス業や小規模企業にとって活動基盤の構築につながりやすい働きかけを行う。

### ※注釈

- ・DX(Digital Transformation) :  
先端的なデジタル技術の活用を通じて、デジタル化が進む高度な社会において新たな付加価値を生み出せるよう、業務そのもの、組織、プロセスなどを変革すること。
- ・SDGs (Sustainable Development Goals) :  
2015 年国連サミットで採択され、国連加盟国 193 ヶ国が 2030 年までに達成すると掲げた「持続可能な開発目標（17 の目標と 169 のターゲット）」のこと。
- ・RPA(Robotic Process Automation) :  
コンピューター上で行われる業務プロセスや作業を自動化する技術。
- ・ニューノーマル化(新しい常識・常態の定着)  
2020 年の新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに広まった、テレワークや Web 会議システムなどを活用した業務やコミュニケーションの取り方の変化のこと。
- ・モノ価値からコト価値(モノからコトへ)  
2000 年代以降に顕著になった消費行動の変化を意味し、これまでモノ（商品やサービス）を所有することに価値を置いていた消費から、商品やサービスを購入することで得られるコト（体験や経験）が価値を持つようになったこと。
- ・2024 年問題  
2024 年 4 月以降、建設、運輸、医療に対して例外的に認められていた時間外労働の上限規制の猶予が終了することから発生する諸問題（運輸業で言えば、ドライバーの収入減、ドライバー不足、運賃上昇など）。